

函 企 交

令和6年（2024年）9月9日

市議会議員 各位

企 画 部 長

参考資料の配付について

このことについて、下記の資料を別添のとおり配付いたします。

記

配付資料 新幹線の函館駅乗り入れ検討に係る進捗状況について

（計画推進室交通政策課新幹線対策担当 TEL 21-3624）

新幹線の函館駅乗り入れ検討に係る進捗状況について

1 乗り入れケースの検討

新幹線等の函館駅乗り入れに関する調査報告書の公表以降，調査で想定した6ケースについて市として検討・分析を行った結果，実現を目指す具体的な乗り入れケースとして，ケース2 F（フル規格新幹線車両／札幌・東京両方面からの乗り入れ）を基本とし，今後検討を進めていく。

<参考：乗り入れ6ケース>

（乗り入れ区間）

- ・ケース1：函館～札幌間で乗り入れるケース（東京方面からの乗り入れなし）
- ・ケース2：函館～札幌間および東京～函館間の両方面から乗り入れるケース
- ・ケース3：函館～札幌間および東京～函館間の両方面から乗り入れるケース
（東京方面については，新函館北斗駅での車両の分割・併合あり）

（乗り入れ車両）

- ・フル規格新幹線（F）
- ・ミニ新幹線（M）

2 ケース2 Fとした主な理由

(1) 車両をフル規格新幹線（F）とした理由

- ・フル規格新幹線はミニ新幹線に比べ座席数が多く，輸送力大きい。
- ・北海道新幹線（新青森～新函館北斗）の既存のホームドア等はフル規格新幹線対応の仕様となっており，車両の長さ等が異なるミニ新幹線が乗り入れた場合，ホームドア改修などの対応が必要となる。

(2) ケース2とした理由

- ・分割・併合ケース（ケース3）は1編成あたりの座席数が他のケースより少なく，輸送力が低いことに加え，分割・併合に時間を要する。
- ・札幌・東京両方面からの乗り入れ（ケース2）のほうが，札幌方面のみ（ケース1）に比べ利用者の利便性向上が期待される。
- ・上記のほか，経済波及効果などを総合的に勘案し判断した。

3 今後の検討の進め方

今後の検討スケジュールや最終的な事業費などは，関係機関との打ち合わせの状況を踏まえたうえで精査し，判断する。

なお，北海道旅客鉄道株式会社とは，同社の営業区域に限り打ち合わせを行うこととし，また，乗り入れにより追加で発生する車両調達費などの実質的な費用負担は同社に求めない方向で進めていく。